

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目

英語

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年と同様、大問5問の構成であった。配点についても、昨年と同様、読解問題が130点、作文問題が70点であった。読解問題（第1問～第3問）では下線部内容説明問題を中心に、下線部和訳問題、真偽型内容一致問題、空所補充問題などが出題された。

英作文問題（第4問・第5問）では例年通り条件英作文が2題出題された。出題形式は2024年度以前の形式に戻り、第4問の出題形式は与えられた英文を読んで自分の考えを100語程度の英語で述べるという形式で、第5問の出題形式は与えられた図表を80語程度の英語で要約するという形式であった。

〈特記事項・トピックス〉

読解問題の総語数が2025年度から120語程度減少した。

第1問において、解答を50字以内の日本語で説明させる問題が出題され、また第3問において、筆者の主張を約30語の英語で要約させる問題が出題された。後者の形式は2025年度の第1問においても出題されていたため、出題形式が大きく変更したわけではない。記述量は従来通り多いままであった。

第4問、第5問とも条件英作文が出題されたが、2024年度以前の形式に戻った。第4問では与えられたテーマについて自分の考えを100語程度の英語で述べさせる問題が出題され、第5問では図表を80語程度の英語で要約させる問題が出題された。条件英作文のテーマはここ数年、社会的なテーマが出題されていたが、2026年度は「良い教師に求められる3つの能力」という受験生にも馴染みのあるテーマが出題された。このように九州大学の条件英作文は出題形式が変わることが多いので注意したい。

〈合格への学習対策〉

読解問題については、英文の構造を正確に把握し、日本語に置き換える訓練を積むこと。また、(1)難しい表現の意味をその前後の文脈から推測する、(2)抽象的な内容とそれを具体化した箇所との関係に注目する、(3)承前語句の具体的内容を考えるとといったことに注意して文脈をつかみながら英文を読むことを心がけること。

条件英作文については、形式面では、自身が熟知し、使いこなせる表現を増やし、文法的に正確な英文を書くように努めよう。内容面では、設問の指示をしっかりと読み、「何を書くべきか」を十分に吟味して、論理的に破綻のない文章を書くように努めよう。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
[1]	記述 選択	読解総合「視覚能力」	<p>問1. 空所補充問題 (選択) 文脈に合うように、与えられた選択肢の中から空所に適切な前置詞を入れる問題。特定の動詞と前置詞のつながりに気づくことができれば解答できたであろう。</p> <p>問2. 下線部和訳問題 (記述) between A from B の部分で戸惑った受験生がいたと考えられるが、それ以外は取り組みやすい問題であった。</p> <p>問3. 内容説明問題 (記述) 下線部(2)the magic of sight の具体的な内容を説明する問題。「第5段落の内容に基づいて」と指示があるので、それに従って該当箇所を特定し、50字以内にまとめる。</p> <p>問4. 下線部言い換え問題 (記述) 本文中に引かれた下線部の内容を示す語を抜き出す問題。第5段落第3文の brains と、そのあとに続く第4文から正解を導き出せるだろう。</p> <p>問5. 内容一致問題 (選択) 5つの英文より、本文の内容に合致しないものを選ぶ問題。選択肢Aが第2段落第2文及び第3段落第2文などの内容に合致しないため、比較的容易に正解を選択できたであろう。</p>	標準
[2]	記述 選択	読解総合「イルカがことばを持つのかどうかについての新たな研究」	<p>問1. 下線部和訳問題 (記述) what 節の構造と、a means に続く不定詞句が or で並列されていることを正確に把握することが重要である。</p> <p>問2. 内容説明問題 (記述) (2)については、第2段落第1文～第2文の内容をまとめる。(3)については、第3段落第1文と第4段落第1文の内容に、第5段落の具体例を含めてまとめる。</p> <p>問3. 下線部言い換え問題 (選択) 下線部と置き換えて最も意味が通るものを選択する。</p> <p>問4. 下線部内容不一致問題 (選択) 下線部と置き換えることができないものを選択することで比較的容易に解答を出すことができる。</p> <p>問5. 段落内容一致問題 (選択) 第8段落第2文～第4文の内容に一致する選択肢Dが正解となる。</p>	やや難

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

[3]	記述 選択 要約	読解総合「他者と協力して記憶を呼び起こすことの短所」	<p>問1. 下線部和訳問題 (記述) leading 以下の分詞構文と, otherwise と仮定法過去完了の組み合わせを正しく訳せるかがポイント。</p> <p>問2. 下線部和訳問題 (記述) reinforcing の訳と, which がコンマの前の文の内容を指す用法であることを見抜けるかがポイント。</p> <p>問3. 空所補充問題 (選択) (ウ)はやや難しい。同段落に「集団の記憶は, 会話を支配する人が思い出す情報を不釣り合いに反映する」といった内容があることから, 集団の記憶には一定の傾向が見られる, つまり random ではない, ということが読み取れば正解できる。</p> <p>問4. 本文要約 (記述) 30 語という限られた語数で全体を要約するのは容易ではないが, 「一人で思い出すより, 集団で思い出すとむしろ記憶が不正確になることがある」という主張内容を正しい英語で表せていれば, ある程度の得点は取れるだろう。</p>	やや難
[4]	記述	条件英作文「良い教師に求められる3つの能力」	与えられたテーマについて自分の考えを 100 語程度の英語でまとめる。「良い教師に求められる3つの能力」を書く必要があった。テーマは馴染みのあるものだが, 3つ思いつくかどうかポイントになるだろう。比較的書きやすいものとしては, 「説明する力」, 「コミュニケーション能力」, 「忍耐力」, 「教育への情熱」, 「専門知識」などがある。	標準
[5]	記述	グラフの要約「通勤手段の変化に関するグラフ」	大学への3つの通勤手段の利用割合の推移を示すグラフを見て, そこから読み取ることができる情報を 80 語程度の英語で書く。具体的には, 全体的な傾向及び, 各交通手段の数値の変化をまとめればよい。	標準

「問題レベル」は, 本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に, 問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので, 総括の難易度(昨年比)とは連動しません。